



石田 香織

Kaori Ishida

INTERVIEW

12

地球に嬉しい楽しいコトを  
モットーに活動を展開

## 持続可能な地球環境と社会の共生を 実現する新しい価値をクリエイトしたい

はじめはドキュメンタリー映画『107+1～天国はつくるもの～』との出会いでした。観賞後、なにかせすにはいられず、仲間とともにゴミ拾いを開始。続けていく過程で環境問題に関心を持ちました。またカンボジアへ自立支援に行ったときは、そこで暮らす人々の心の豊かさに触れ、「生きること」について深く思索。次第に想いは広がり「地球をよくする」ためにできることを考えるようになり、たどり着いたのが“食”でした。人を良くすると書いて“食”なので、安心で安全なものを提供したいと飲食店を開業。食と環境についての活動を続けていくなかで、他者のいのちを認め合うことの大切さを感じて、いのちの出前講座をする「inochi lab」を立ち上げました。多岐に展開しているように見られますが、モットーは地球に嬉しい楽しいコト。ゴミ拾いという些細な行動から、仲間が増え、視野が広がり、現在に至ります。目下の目標は、北海道や日本のオーガニック率は世界に比べてとても低いため、現在の0.25%を1%まで引き上げられるように、消費量や流通量を増やし、生産者・消費者を増やしたいですね。

### PROFILE

1986年、苫小牧市生まれ。嬉楽株式会社の代表取締役。学費は自分で稼ぎたくて定時制高校に入学したというほど自立心にあふれている。紆余曲折ありのドラマチックな人生で、明るくポジティブな笑顔を見せる苦勞人。今も毎年5月3日はゴミの日として、ゴミ拾いイベントをしている。  
ホームページ <http://kiraku-jp.net>



### 現在の仕事(活動)と やりがい

「食といのち」をテーマに、札幌市内でオーガニック飲食店の経営と北海道の農産物加工ブランドのプロデュースなどを行っています。また、一般社団法人inochi lab(いのちラボ)において、いのちの出前講座などの企画運営もしています。やりがいは、やはりお客さまによるこんでいただいたとき、一緒に働く仲間と共に成長できることです。

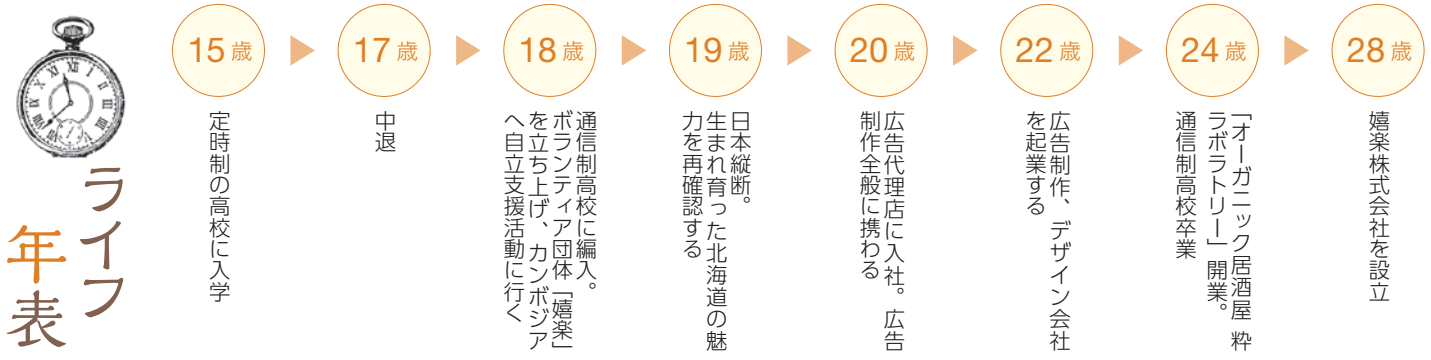
### 女性が活躍する上で、 不足していること

札幌に同年代で起業する女性(男性も)が圧倒的に少ないため、意見交換などをする仲間は北海道外でした。わたしが知らないだけかもしれませんが、そういった若手コミュニティーがとても少ないです。コワーキングスペースにしても、一人ひとりが“個”ワーキングしていることも多いので、もっと交流があると良いと感じます。あと、シングルマザーが子育てしながら働ける制度や子育てに集中できる支援制度もあると良いと思います。





① 自立支援活動のためカンボジアに行ったときの様子 ② オーガニック居酒屋の店内。プロデュースしている北海道の農産物加工ブランド「amado(アマド)」のクッキー  
 ③ 飲食店のお客さまとともに農業体験を通して、食の大切さを考えるイベントも行っている  
 ④ ゴミ拾いイベントの様子 ⑤ 北海道のビオ&オーガニックライフを応援、発信するローカルコミュニティ「BIO HOKKAIDO」の立ち上げイベント



### キャリアでの忘れられないエピソード

苦労した点は、飲食店を開業したとき、若いということで、なかなか物件を借りることができず大変でした。性別や年齢で信頼度をはかるのは仕方ないのかもしれませんが、若い世代のチャンスが減ることにもなると思います。利点としては、デザインの仕事などは、若手ということで応援してくれる意味もあり受注しやすかった。飲食店においては、スタッフの9割が女性なので、きめ細かいサービスができています。

### 仕事と家庭の両立で工夫していること

時間管理をすること。仕事はデスクワークが多く、没頭しすぎることもあるので、アラートを設定して一定時間作業したら休憩時間をとるようにしています。集中することも大切ですが、休憩も同じくらい大切だと思います。

### プライベート(休日など)の過ごし方

のんびり過ごすことが多く、ゆっくりと岩盤浴を楽しみます。また社社に参拝も。清々しい気持ちになれるんです。あと、自然に身を置いてリラックスとリフレッシュもするようにしています。

### 女性が活躍することについての意義

これは女性だけに特化した話ではないような気がしますが…活躍とは、ビジネスで成功すること、キャリアの向上だけではないと思います。人が人らしく生きられる、そんな社会をつくりあげるには、自分の意志を持って行動することが大事ではないでしょうか。

### 将来の展望・目標

現在は北海道が持続可能な地球環境と社会の共生を実現しているモデル地域になれるように、ローカルレベルの小規模活動を行っています。飲食、観光、農村、芸術、生活のインフラなどが一体となり、心の充足感に加え、カラダの健康と地球の持続可能な在り方を2020年までにつくりたいと思っています。また、いのちの尊厳を感じられるような授業と環境の充実などを行うことによって、若手がやる気に満ちあふれ、応援し合える社会の空気、自由に生きられる世の中になったら、と考えています。

### 後輩女性へのメッセージ

「やる」と心の底から決めて、ブレずに動くと、必ず周りは協力してくれます。自分が自分らしく、楽しく生きるのには決してラクな道ではありません。それでもコツコツと続けられるのは、ビジョンを描き、楽しむことを忘れなければ大丈夫！(と、自分に言い聞かせていることでもあります。笑)